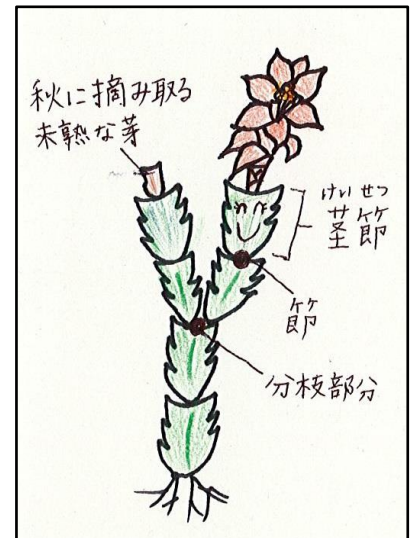




【シャコバサボテン サボテン科】

シャコバサボテンは別名でデンマークカクタスとも呼ばれ、原産地はブラジルのサボテンの仲間です。サボテンと聞くと日光が大好きで乾燥に強いと思いがちですが、シャコバサボテンは霧が立ちこめるような森林地帯の木の幹に根を張ってぶらさがって生きているので、直射日光や高温、乾燥を嫌います。春～夏にかけては屋外の風通しの良い明るい日陰に置いて育てます。寒さに弱いので10℃を切る冬には室内の明るい場所へ移動させます。水やりは基本的に乾いたらたっぷりあげます。真夏は暑さで生育が衰え、土が乾いていないうちに水をあげると高温多湿により根腐れしやすいので、土の表面が乾いて2～3日経ってから水やりをします。水をあげても元気にならずしなびたままの時や、葉が赤くなって莖の途中から根が出ている様な場合は根腐れを起こしているかもしれません。植替え適期は春ですが、そのまま放っておくと枯れてしまうかもしれないので根を確認し植え替えをしてあげてください。肥料は4月～6月頃、緩効性肥料を月に1回、液体肥料を2週間に1回与えます。

シャコバサボテンの特徴的な葉は甲殻類の蝦蛄に見立てて名前がつけました。しかも、葉のように見える部分は葉ではなく、莖が平たくなったもので「莖節」と呼びます。この部分を摘み取る作業を「葉摘み」と言い、春と秋に行います。4月上旬～5月下旬にかけて葉を2～3節摘み取ると新芽が多く出てしっかりとした株に育ちます。秋は9月下旬～10月中旬頃、赤い小さな葉を摘み取ることで花が株全体につくようになります。秋に伸びてくる葉は小さすぎて花を付けることができません。弱々しい葉も思い切って摘み取ります。春に摘み取った葉は挿し芽にして簡単に殖やすことができます。シャコバサボテンはアサガオやポインセチアと同じ、自然と日が短くなる（夜が長くなる）のを感じて花芽をつける短日植物です。1日の日の長さが12時間以下になるよう電灯などの光に注意して置き場所を考えます。ずっと明るいままだと花が咲きません。そのような場所がない場合はダンボールなどを被せて暗くします。約1カ月程で花芽ができます。つぼみができて、うれしくてすぐに暖かい室内へ移動させるとつぼみが落ちやすいので、つぼみの大きさが3cm以上になるまでは移動させず同じ場所で育てます。ただし、暖房による高温や乾燥は花が早く終わったりつぼみが落ちる原因になるのでやや温度の低い場所へ置いておくと良いです。



シャコバサボテンの寿命は上手に育てると20～30年程と言われています。1年を通した管理が大切になりますが、花が咲いたシャコバサボテンは寒い冬を明るくしてくれます。色もたくさんあるので自分好みの花色を選び育てれば家族同然の植物になるかもしれません♪ （写真・文：濱田夕子相談員）

'2024'をかたどった花壇

花とみどりの相談所では、地域での緑化活動の先導役となる緑化リーダーの発掘・育成を目的に、緑化リーダー養成講座実施しております。

今年も恒例の、養成講座(応用編)の受講生の皆さんが、講座の一環として苗作りからデザイン・植え付けまでを行い、花とみどりの相談所入口の花壇に、西暦「2024」の植え込みや寄せ植えを製作しました。また、門の前にはハボタンでかたどった今年の干支の「辰」を飾っています。是非ご覧になってください。



花とみどりの講習会

【春バラの冬剪定と育て方】

日時：1月20日(土) 10時～12時 場所：花とみどりの相談所
講師：同所相談員 植村 修二 定員：24人
申込：1月13日(土) 9:15～ 電話可 費用：600円

花とみどりの相談

相談時間は、**火曜日・木曜日**の
午後1時から4時30分までです。
電話による相談も行っています。

花とみどりに関する相談を受け付けて
しています。お気軽にどうぞ!

《1月の休所日》
毎週の日曜・月曜日と9日(火)です。
年始(1/1～1/3)は、休所します



豊中市 花とみどりの相談所

〒561-0804 豊中市曾根南町1丁目4番1号(豊島公園内) 阪急宝塚線 曾根駅南 徒歩5分

TEL 06-6863-8439

FAX 06-6863-3638